

### 3. コンセプトの設定

#### (1) 市場エリア（BtoBエリア）整備方針とコンセプト

市場エリア（BtoBエリア）整備上の課題を踏まえ、本施設の整備方針は次のとおりである。

##### ■① 既存施設の利活用

建物性能やニーズ、効率性等を評価して機能を満たすものは活用し、満たさないものは廃止または更新する。

##### ■② 施設規模の縮小

効率的土地利用と必要規模に応じたダウンサイジングを行う。

##### ■③ 施設の適正配置による効率的な物流動線の確保

場内物流に対応した効率的な配置を行う。

##### ■④ コールドチェーン化

温度を適切に管理できる密閉・閉鎖型低温管理施設の整備を行う。

##### ■⑤ 輸出に対応

輸出に対応可能な設備整備を行う。

##### ■⑥ 共同配送・共同加工

複数事業者による共同配送・共同加工により営業の効率化を図る。

##### ■⑦ 県民に親しまれる市場づくり

「食」の情報発信を担う市場として県民が市場と親しめる場を整備する。

本施設のコンセプトは次のとおりである。

**市場基礎機能の強化による市場ブランドと安全・安心の実現**

市場の現状を踏まえた持続可能な施設整備を前提とし、市場が本来もつ卸売機能の効率化・高性能化とブランド力の向上を図る。

## (2) 賑わい創出エリア（BtoCエリア）整備方針とコンセプト

賑わい創出エリア（BtoCエリア）整備上の課題を踏まえ、本施設の整備方針は次のとおりである。

### ■① 奈良県の食の情報発信拠点

隣接する県の市場と連携した B to C 施設として、観光客及び県民など、一般消費者を対象とした「食べる」「買う」「学ぶ」を一体的に提供できる、食文化発祥の地ともいえる奈良県の「食の情報発信拠点」として整備する。

### ■② 時間や性質の異なる活動の連鎖による市場の余剰地及び空き時間の活用促進

滞在時間の拡大に向けた魅力的な施設として、異なる活動があちこちで生まれているとともに、それらの活動が、異なる時間帯に効果的に機能するような仕掛けづくりを行い、市場の余剰地を活用するだけでなく、常に何か面白いことが行われている空間として整備する。

### ■③ 多様な世代が楽しめる新たな観光スポットの形成

ターゲットとなる年代を敢えて絞ることなく、食を通じて友人や家族といった多様な世代が楽しめる魅力あるコンテンツを導入し、奈良県民はもちろんのこと、広域からの観光客も呼び込める新たな観光スポットとして整備する。

### ■④ インバウンド観光を含む広域集客の拡大・観光消費額の増大

ビジット・ジャパンに代表される国の積極的なインバウンド観光の進展や、2020年の東京オリンピック開催による外国人観光客の増加を見込み、宿泊施設の充実や夜間の飲食機会の充実に資する施設として整備する。

### ■⑤ BtoC施設整備による周辺地域への波及効果の拡大

市場（B to B施設）と連携した B to C 施設として広域から集客することにより、計画地周辺地域への誘客を促進できる波及効果の高い施設として整備する。

### ■⑥ 地域経済効果の高い多様なイベントを開催できるイベント広場（アリーナの空間）の確保

多様な世代が楽しめるエンターテインメント空間として、常に何か楽しいことが行われており、賑わいが生まれているイベント広場（アリーナの空間）を整備する。

また BtoC エリアは、隣接する市場エリア（BtoB）との連携を図ることで相乗効果をもたらし、市場ひいては地域の活性化への貢献を図ることが可能と考える。本施設のコンセプトは次頁のとおりである。

“食” と親和性が高く、観光（賑わい）への相乗効果の高い機能との複合化

### 「まほろば Food Amusement Park（仮称）」

- 大和まな等の大和野菜や大和牛などの大和畜産ブランドを含む市場の新鮮な食を中心に、地域や観光客など誰もが、ここだけの「食べる」「買う」「学ぶ」を体感できる施設
- 食と親和性が高い観光機能を備えた奈良県有数の観光スポットとなる施設
- ならの文化を伝える様々なイベントを開催可能な施設
- 多様な活動や交流により賑わいが生まれ、周辺地域への波及効果が高い施設

### (3) 市場エリア及び余剰地活用のコンセプト

基本構想と上記の現状分析を踏まえた上で、基本計画策定における市場エリア及び余剰地活用のコンセプトを以下のように設定する。

#### 市場エリア及び余剰地活用のコンセプト

